

仕組みを関係で読む

読み方ガイド 1 | 中3の読解・記述を確かめる

説明文では、事柄を知るだけでなく、原因と結果、比較、手順、全体と部分の関係を捉えます。「何が起こるか」と「なぜ起こるか」を分けて整理しましょう。

段落の役割を見付ける

問題の提示：これから何を説明するか。

定義：言葉をどんな意味で使うか。

仕組み：何が、何に、どう影響するか。

具体例：仕組みがどんな場面に当てはまるか。

条件・限界：どんな場合には言えないか。

短い例

透明な箱に玉を入れ、底の穴から一個ずつ出す模型を考える。入れる数より出る数が少ない時間には、箱の中の玉が増える。入れるのをやめても、すでにたまった玉が出終わるまでは空にならない。今見える玉の数には、それまでの出入りの差が残っている。

原因と結果を分ける

原因：一定の時間に、出る数より入る数が多い。

途中の変化：出なかった玉が箱の中に残り続ける。

結果：箱の中の数が増える。

注意：入れるのをやめた時刻と、空になる時刻は違う。

接続語だけで決めない

「一方」は対比の手掛かりですが、何と何をどの観点で比べるかは内容から確かめます。

「このように」の後が全体のまとめか、一つの例のまとめかも前後を読んで判断します。

比較の条件を確かめる

読み方ガイド 2 | 中3の読解・記述を確かめる

二つの例を比べるとき、変えたものとそろえたものを分けます。いくつかの条件を同時に変えると、何が結果に関わったか判断しにくくなります。

比べる三つの問い

何を比べるか：量、速さ、順序、働きなど。

何をそろえるか：比較に影響する他の条件。

どこまで言えるか：例で確かめた範囲と、まだ確かめていない範囲。

例の読み方

同じ合計数の玉でも、短い時間にまとめて入れる場合と、少しずつ入れる場合では、途中にたまる数が違うことがあります。合計だけでなく、入れている間に出る数と、時刻ごとの残りを考えます。

数の種類を混ぜない

量：今ある数、合計の数、最大の数。

速さ：一定の時間に移動する数。

平均：全体をならした値。途中の集中や個人差が見えにくくなる場合があります。本文がどの数について述べたかを確かめます。

模型と現実を分ける

模型は注目する関係を取り出して説明します。本文で「一定とする」「ここでは」と定めた条件を、現実のどんな場面でも成り立つ事実へ広げないようにしましょう。

段落を結んで説明する

読み方ガイド 3 | 中3の読解・記述を確かめる

中3の読解では、離れた段落の情報を合わせ、仕組みを別の場面に当てはめて考えます。本文に書かれていない結果を、確かな事実として付け足さないことが大切です。

記述の形

理由説明：「条件が～なので、途中で～となり、結果として～から。」

比較説明：「共通するのは～で、異なるのは～という点。」

仕組みの要約：「～は、～を通して～する。ただし、～という条件がある。」

よくある読み違い

一部分の改善を、全体の改善と同じにする。

合計や平均が同じなら、途中の様子も同じだとする。

例に出た対象だけに、一般的な説明を狭める。

「場合がある」を「必ず」に置き換える。

見直しのチェック

- ☐ 問いが求める対象と観点に答えた。
- ☐ 原因と結果の間の仕組みを省かなかった。
- ☐ 比べる二つの対象を両方書いた。
- ☐ 条件と限界を残した。
- ☐ 字数と抜き出し範囲を守った。

この単元の使い方

Aは地図の比較、Bは水の量と速さ、Cは受付の全体の流れ、Dは辞書の分類を読みます。各8問です。A～Cは練習、Dは100点満点の実力確認テストです。記述は解答例と表現が違って、必要な内容を採点基準で確かめましょう。